

自衛隊霧島演習場（鹿児島県と宮崎県にまたがる）の都市型戦闘訓練施設
2006年7月から9月にかけて建設、完成する。

「南日本新聞」2007年1月17日

「毎日新聞」2007年1月18日



自衛隊 都市型戦闘訓練施設

1, 福岡県北九州市小倉南区曽根の陸上自衛隊の都市型戦闘訓練施設

- (1) 平成 14 年 1 月に北九州市小倉南区に所在する陸上自衛隊曽根訓練場に整備
- (2) 訓練施設は、鉄骨造二階建て二棟及び鉄骨造一階建て一棟で構成され、その合計延べ床面積は、約 1000 平方メートルであり、訓練施設においては、四方から建物に侵入しようとする敵を当該建物の内外から警戒し及び監視する訓練、建物を占拠した敵から当該建物を奪回する訓練、近接戦闘用交戦訓練装置を使用した模擬射撃等を実施している。
- (3) 一年間に約 20 回、西部方面隊等に所属する師団等の普通科連隊等から派遣された 40 名から 100 名程度の隊員が 2 日から 12 日間程度の訓練を実施している。

陸上自衛隊の北部、東北、東部、中部、西部の各方面に所在する市街地戦闘訓練施設等の駐屯地、演習場名及び訓練を実施している部隊名

東部方面区 東富士演習場(静岡県)に所在し、東部方面隊等に所属する師団等の普通科連隊等が訓練を実施している。

中部方面区 饗庭野演習場(滋賀県)に所在し、中部方面隊に所属する師団等の普通科連隊が訓練を実施している。

これらの訓練は、武装工作員等による不法行為及びゲリラや特殊部隊による攻撃への対処を目的としている。

陸上自衛隊の米陸軍あるいは米海兵隊との日米共同訓練における、市街地戦闘訓練を主目的とした訓練

陸上自衛隊は、市街地戦闘に関する能力の向上を図ることを目的として、平成 14 年度及び平成 15 年度にアメリカ合衆国ハワイ州にて合衆国陸軍と、平成 16 年度に合衆国グアム準州において合衆国海兵隊と、平成 17 年度に合衆国ワシントン州において合衆国陸軍と、それぞれ市街地戦闘における警戒、監視、射撃等の訓練を実施している。

(出典:「都市型戦闘訓練施設」に関する赤嶺衆院議員の質問趣意書から)

井上議員ら都市型施設視察/陸自「日米共同使用も」/滋賀・饗庭野

滋賀県高島市の陸上自衛隊饗庭野(あいばの)演習場の都市型訓練施設を 10 日、日本共産党の井上哲士参院議員、党基地対策委員会事務局長の小泉親司前参院議員らが視察しました。自衛隊側は「海兵隊との共同訓練の可能性もある」とのべ、日米共同使用の可能性を認めました。

同演習場の都市型訓練施設は、「今津ビルディング」という二階建てビルや、銀行、レストランを想定した建物、地下道、戦闘訓練をモニターし指示を与える管理棟で構成。一カ月間に 6 日、空砲やレーザー光線銃を使う交戦訓練を実施。夜間も、ヘリや戦車、装甲車両も参加し、米軍から訓練を受けた隊員が指導していると述べました。

饗庭野自衛隊が属する中部方面隊では、第 37 連隊(大阪)が昨秋、グアムで米海兵隊との訓練に参加。日米共同訓練は同演習場で過去 7 回実施されており、今年度内の中部方面隊での実施も予定しています。

同施設は今年、約五億円をかけて完成したばかりなのに、すでに拡張計画があり、新たにコンビニ、官公庁、アパート、民家を模した七棟と管理棟の拡張に 9 億 7600 万円を予算要求中。これは地元の高島市にも知らされていませんでした。

井上参院議員は、「戦車との戦闘想定は、ゲリラ戦という範囲を超えるものです。施設は非常なハイテク設備で、訓練も米軍と密接な関係のもとで、実戦を想定しています。米軍の再編・強化と一体で、自衛隊の危険な施設強化も進んでいることが明らかです」と話しています。(2005 年 10 月 しんぶん「赤旗」)

防衛庁の「平成 18 年度防衛力整備と概算要求の概要」から

(2)ゲリラや特殊部隊による攻撃等への対応(921億円(17年度841億円))

沿岸部等の警戒監視、侵入した特殊部隊等の捜索、捕獲・撃破、重要施設防護等の各能力の向上を図るため、各種機能、訓練施設等の充実を図る。また、核・生物・化学兵器による攻撃への対処能力の向上を図る。

ゲリラや特殊部隊による攻撃等への対処(806億円(17年度765億円))

沿岸部等における警戒監視・情報収集

- ・移動監視レーダー等の整備
- ・広域用監視装置の整備【新規】
 - 侵入したゲリラや特殊部隊の捜索、重要施設等の防護
- ・各種車両、ヘリコプター、無線機の整備
- ・重要施設防護のための訓練の実施
 - 侵入したゲリラや特殊部隊の捕獲・撃破
- ・都市型の訓練施設の整備、米国における実動訓練
- ・新近距離監視装置の整備【新規】
 - 警察との連携の強化
- ・治安出動に係る警察との共同訓練

防衛庁の「平成 19 年度防衛力整備と概算要求の概要」から

3 新たな脅威や多様な事態等への対応

テロやゲリラや特殊部隊等による攻撃などに実効的に対応するため、装備の導入や訓練の実施等により、これらの事態への対応能力の充実を図る

ゲリラや特殊部隊による攻撃等への対応【823億円】

沿岸部等における警戒監視・情報収集

- ・移動監視レーダー等の整備
- ・沿岸監視訓練の実施
- 侵入したゲリラや特殊部隊の捜査、重要施設等の防護
- ・各種車両、ヘリコプター、無線機の整備
- ・基地警備のための機動警備要員の確保【新規】
 - 侵入したゲリラや特殊部隊の捕獲・撃破
- ・都市型戦闘訓練、米国における実動訓練
- ・近距離監視装置等の整備
- 警察との連携強化
- ・治安出動に係る警察との共同訓練